

市議団ニュース

No 1805

2016年7月17日

日本共産党根室市議団

根室市宝林町4-203

TEL 23-6023

FAX 24-1684

さらなる循環型社会をめざして

分別収集計画の変更をすすめる

根室市では、廃棄物の減量化・資源化をいっそう推進するため、一般廃棄物の分別化を積極的に取り組み、文字通り循環型社会を構築するとしています。そのため、資源化の目標値をさらに高めて、最終処分場延命化等の分別収集計画の変更を進める方針です。

資源化の目標値を着実に

これまで市では、一般廃棄物の減量化・資源化に取り組んできました。その結果、資源化率が着実に増加、2008年度には9.9%、2015年度では22.3%となり一般廃棄物処理基本計画最終年となる2019年度の目標値である28.3%を確実に達成できるとみています。

最終処分場の延命も

こうした取り組みが功を奏し、ごみ埋立処分場の最終分量が2010年度からの新分別収集開始以降大きく減少、その後も安定的に推移しているため、埋立処分場の埋立期限を7年間延長し、2020年まで使用できることから分別計画の変更をすすめることとなりました。

市民の協力こそ支え

根室市がこの様に資源化率を向上させ、最終処分場(埋め立て)などの延命が可能になった背景には、市民の皆さんの分別収集への取り組みが何よりの支えでした。

また、町内会の資源ごみを回収するための市の支援策、さらには、ゴミカレンダー等の政策と周知、ホームページへのゴミカレンダー掲載等々の努力の結果ともいえるものではないでしょうか。

どこまで進んだ流し網禁止対策

ロシア海域でのサケ・マス流し網禁止元年となった今年、漁業分野や他の関連産業分野での代替漁業、口海域での代替漁法等の対策がこの春から進んでいますが、漁業、関連産業ともかなり厳しい状況がますます浮き彫りになっていきます。

口海域の代替え漁法

今年の「サケ・マス漁業日口政府間交渉」は、5月13日に妥結しました。その結果を受けて、水産庁の委託事業として調査船第五海洋丸(495トン)を用いた曳き網(ひきあみ)による試験的な操業が7月13日から26日の期間実施されます。

試験操業にある程度見込みが立って「本チャン紅」の花咲港への水揚げの「夢と地域産業の活性化」を待望せずにはいられません。

公海サンマは？

太平洋沖合での公海サンマの試験操業も5月から7月の3か月間実施されています。6月23日までの水揚げは640トン余りです。その他は、船上での船上冷凍、洋上売魚の輸出向け、地域経済への貢献はほとんど期待できない状況。関連産業への融資制度も厳しい内容となっています。

苦戦するサバ・イワシ

一方、襟裳の東南沖(太平洋沖合公海)等で操業している代替漁業のサバ・イワシ試験操業は、



試験操業に使われる海洋丸
(海洋エンジニアリングのHPより)